



揮毫 伊藤茂男氏

鎌田地区  
平成 29 年 3 月 1 日 現在

世帯数	8,747 戸
男	9,871 人
女	9,498 人

発行 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会

# 福祉ひろばの改修・町内公民館整備 事業補助金の拡充 前向きな回答!

## 鎌田地区市政懇談会



2月15日(水) 19時から、鎌田地区公民館で市政懇談会が開催された。地区住民約60名が参加し、

松本市長他、幹部職員らと意見交換を行った。

懇談会開始前に平成27年度市政ニュースを30分見た後、市長、町会連合会長のあいさつに続いて、用意された2つの課題に対して市の見解が示された。

①鎌田地区福祉ひろばの改修(増床)について

町内公民館は、社会教育の場であるとともに、町会運営及び地域づくりの拠点施設であり、

②町内公民館整備事業補助金の拡充について

高齢化がますます進む中、地域福祉の拠点として「福祉ひろば」の重要性が増してきている。鎌田地区は2館目の建設を運営面の課題から見送ることとしたが、より多くの高齢者が集う施設として各種事業を実施する十分なスペースが確保できないことが常態化しているため、増床による施設の充実を図って欲しい。

【回答】 増床については今後基準を検討させていただくこととしました。2館目整備の基準である高齢者人口や、利用者数の視点に加え、地区福祉ひろばの機能も含めて検討する必要がありますと考えております。



災害時の避難場所にもなっている。しかし、費用負担の課題から町内公民館の改築等の整備がなかなか進まないのが現状となっている。町内公民館の整備促進を図られるよう、町内公民館整備補助金について、補助率及び補助限度額の拡充をお願いしたい。

【回答】 松本市の町内公民館整備補助金については、県内他市と比べてもトップレベルの水準にあります。市としても町内公民館整備の促進に向け、補助金の拡充について検討してまいります。

その他、鎌田地区福祉ひろばで行ったスポーツボイス大学院をもっと広めて欲しい、国の史跡に認定された井川城跡に公園など子どもが集う場所を作って欲しいなど、様々な意見交換がなされた。

# 地域ケア会議を開催



2月1日(水)、鎌田地区公民館で地域ケア会議が開催されました。地域の方、介護保険事業所、医療機関の計78名が参加しました。

7回目の今回は地域と介護事業所での在宅生活を支えた井川城中区の取り組み及び鎌田地区の状況、松本市のモデル地区の報告を行った後、町会毎に分かれて意見交換を行いました。

鎌田地区の高齢化率は21.3%ですが、町会により40%前後の町会が4町会あります。各々環境は違いますが、検討テーマとして「健康が維持できる場づくり」や「困りごとが解決できる関係作り」を各町会でのように活動しているか、話し合いました。

「場づくり」では出前ふれあい健康教室やサロンの開催、趣味や高齢者クラブの活動など、各町会で工夫された取り組み状況が報告されました。

課題としては参加者の固定化・サロンを立ち上げたが主力になってくれる人がいないなどの課題も上がりました。

「関係づくり」ではゴミ捨て支援が行われている町会もあれば、見守り安心ネットワークが上手く機能していない町会もありました。若い世代が積極的に関わっている町会が積極的に関わっている町会があります。一方、介護事業所としては今後、高齢者向けにわかりやすいパンフレットを作成したり、事業所の行事計画を回覧するなどして、デイサービスに対する抵抗感を無くす努力をしていきたいとの意見もありました。

今回の意見や課題など今後の地域づくりに活かしていただければと考えます。包括支援センターとしても、課題分析し、包括ケアシステム構築に向けて活動してゆきたいと考えています。

中央西地域包括支援センター 塩原 孝子

※地域包括ケアシステムとは「誰もが住み慣れた家で、地域で、安心して暮らし続けることができる仕組み」です。この仕組みを作る上での一つのツールとして「地域ケア会議」が地区ごとに開催されています。

# 退任あいさつ



鎌田地区公民館 館長 善洋 仲

の公民教育課長であった寺中作雄氏によって構想され、昭和21年10月には妻籠公民館が早くも設置、これが日本最初の公民館の誕生です。それから70年が経過しました。この間、地域の人々にもっとも身近な学習や交流の場として、活力と潤いのある地域社会実現のため、大きな役割を果たしてきました。現在、公民館が設置された時代とは時代背景や社会の構造、国民意識が大きく変化

公民館は戦後間もない昭和21年、文部省

してきており、公民館の役割や在り方について見直しに迫られています。超少子高齢化の時代、社会の要請に的確に対応し、子どもや若者、働き盛りの世代を含めた住民が気軽に集まり、人間力の向上を求めるコミュニティとして期待されています。鎌田地区公民館は昭和59年に西部公民館としてスタートし、私で8代目です。今後の少子高齢化時代を重視し、地域住民の要望を取り入れる中、平成26年には公民館の大規模改修工事を約1年掛かりで行いました。利用者からも良い評判をいただいています。当館では生徒への学びの支援を目的として、長期休みの間、公民館の一室を学習室として開

放し、ボランティアの先生の応援のもと、子ども達が勉学に励んでいます。また、地区内の小・中学校の校長や教頭達が教育再生を旗印として、公民館を中心に「公学の会」を立ち上げ定期的に研修会を開いています。昨今の講座数は増加傾向にありますが、趣味、稽古事に関する講座が多く、利用者も特定の住民に限定されているように思えます。これからの公民館運営は、地域の学習ニーズの把握、大学との連携、学習機会等の提供が必要に思います。今後の公民館の活動に期待しています。地区の皆さまには6年間、ご支援をいただきありがとうございます。



民生児童委員会 前会長 千野千鶴子

市長から、「地域と行政との懸け橋になって

ちんと生活されている姿勢には、改めて感動し学ばせていただきました。8年目を迎えた「こんにちは赤ちゃん事業」は、可愛らしく微笑みかけられて、命の大切さを思い、ママからも「心待ちにしておりました。」と嬉しい一言に心が和みました。定例会では、具体的な事例を皆の問題として情報を共有し、解決に向けて行政につなげました。仕事の内容は幅広くなり、負担も大きくなってきていると感じます。市議会でも、民生児童委員が繁忙を極めていくこと、負担の軽減が必要であることが指摘されて、市側からも、役割分担を見直す方向であるとの答弁をいただいております。

いとこの思いから、懇親会、研修旅行も実行しました。普段あまり関わりのなかった委員との交流もでき、打ちとけて話のできる絶好のコミュニケーションの場となりました。18年間で、地域の広い年代の方々顔見知りになりました。また、身の回りの組織、団体、多くの施設等も知ることができました。感謝やねぎらいの言葉も沢山いただきました。身に余る光栄です。多くのすばらしい友人にも恵まれて、一生の財産になりました。ご協力いただいた全ての皆様から感謝申し上げます。

下さい。」と厚生労働大臣からの委嘱状の伝達を受けて、6期18年(内会長1期3年)の職務を終えました。当初は福祉ひろばも知らずに、常に重圧を感じて、戸惑うことばかりで、見守り訪問は、どう接し、声かけをしたら良いのか不安でした。先輩からの教え、各種研修を受け、日々経験を積むうちに、あまり形にとらわれず、気負うことなく、普段通りにお話ができるようになりました。体の不自由な方も、自身を律して、き

委員同士の輪と和を大切にしたいと思っております。

来年度は民生委員制度創設百周年を迎えます。退任委員には応援バッチが渡されました。今後でもできる範囲でお手伝いをしたいと思っております。

## いきいきプラチナ世代 初のカラオケ大会盛況!



「恋愛の歌を歌うからいつまでも元気なの」。90代の女性出演者が、終了後に「こやかに語ってくれた。カラオケを通して地域づくり・絆づくりを深めるため、初の「鎌田地区カラオケ大会」が3月5日(日)に地区公民館で開催された。参加者約80名中、プラチナ世代を中心とした33名が出演し、日頃鍛えた得意の歌を次々と披露した。

全員で「花は咲く」を斉唱し始めた会場は、すぐに手拍子や「頑張って!」の声援が飛び交った。中々80〜90代の高齢の方々の参加の多さと、歌う時はつらつと生き生きとした表情や姿には驚きと感動だった。「食改」メンバー9名の協力によるカレーの昼食と「早春賦」の歌で開始された午後後の部では、城東公民館長・原田氏の友情出演もあり、最後は全員で「故郷」を斉唱し感動のうちに終了した。(南雲多栄子)